

## ■ご挨拶

### 近畿双松会 会長 松本 耕司 (16期)



会員の皆様には、足掛け3年にも及ぶ新型コロナウイルス感染禍の中をいかがお過ごしでしょうか。大きな影響をお受けになられました皆様には心からお見舞を申し上げます。

このような状況下ですが、この会報はお互いの絆の確認になることを願い、今年も発刊させていただきました。お手元に届く頃には状況が改善されていることを祈るばかりでございます。

さて、その中で近畿双松会も「総会・懇親会」を初め、ほとんどすべての行事を残念ながら二年連続で中止せざるをえなくなりましたが、この間にも、①将来に備えての役員改選と、②緊急事態にも対応できる会則の改訂については、何とか結論を出すことができました。

また、会員間の重要な情報ツールである SNS の発信も一年を通して続けることができました。

加えて、感染が下火になった際に、幸運にも宝塚歌劇鑑賞会を開催でき、ご参加者のお元気なお顔を拝見し、本当に嬉しく存じました。

以上が本年度の活動のすべてと言ってもいい状況でしたが、特に SNS にご参加の皆様とは折々の会話もでき、この取り組みが今後の活動の要になることも実感いたしました。皆様には是非ご登録をお願いする次第です。(P14 掲載)

いよいよ迎える 2022 年度にはどのような活動が行えるのか？ 特に 11 月に予定する三年ぶりの総会懇親会は是非開催したいと願っておりますが、皆様のご意見をいただきながら、慎重に検討していきたいと考えております。

また、来年 2023 年度は、当会も設立 65 周年を迎えますが、この新型コロナウイルス禍で社会も人も生活も、価値観も人生観も大きく変わってきていることと思われまますので、それも踏まえながら運営していきたいと考えているところです。

いずれにしても、当会当面の第一の目標は「中堅・若手世代の参加の拡大」に尽きると考えますので、そこに焦点を絞って活動をしてまいります。また、それに合わせ、当会の運営も徐々に若い世代の役員の皆様にはバトンタッチをしていきたいと考えておりますので、会員の皆様には、引き続きましてご理解、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

目を松江に転じれば、母校は昨年設立 145 周年を迎え、人口減や少子化への対応、松江市内入学区域の自由化などへの否応もない対応を迫られています。母校も双松会もさまざまな努力を続けておられます。

当会も母校や郷土の発展のために、できる協力はしていかなければと考えておりますので、ご理

解のほどをよろしくお願ひ申し上げます。

「郷土」ということに関しては、ここ近畿の、私が会長をお受けしている近畿松江会や、その他のふるさと会、また近畿島根県人会などでも、会員の高齢化や減少が大きな課題となっていることをお聞きすることが増えてまいりました。当会としても他人事にはできない面もございますので、こちらにも目を向けていただければ真に幸いに存じます。(P22 掲載)

最後になりましたが、会員の皆様にはどうぞ引き続きご自愛賜わり、お元気でお過ごしくたさいますよう心からお祈り申し上げます。

また、ご多用のところご挨拶を頂戴いたしました金津仁紀双松会会長様、常松徹松江北高校校長様には心から御礼を申し上げ、発刊にあたってのご挨拶とさせていただきます。